

第4学年音楽科学習指導案



平成28年10月28日(金)5校時
武蔵村山市立第三小学校
第4学年2組36名
教諭 児玉千恵

研究主題 「人との関わりを大切にし、豊かに表現できる児童の育成」
～グローバル人材育成に向けたオリンピック・パラリンピック教育の充実～

1 題材名「日本のリズム・世界のリズム」

2 題材の目標

- ・我が国の音楽のリズムや旋律に親しみ、それらをもとに自分たちの表現を工夫する。
- ・日本や諸外国の音楽に親しみ、そのリズムや楽器の特徴を感じ取るとともに、よさに気付く。

3 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
日本や世界の様々な音楽に興味・関心をもって聴いたり、友達と一緒に楽しく歌ったり、楽器の演奏をしたりする学習に進んで取り組もうとしている。	日本や世界の音楽のリズムや旋律、楽器の音色などの特徴を感じ取り、それらを生かしながら表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図を持っている。	日本や世界の音楽のリズムや音階の特徴を生かし、ふさわしい表現で演奏したり、音を音楽に構成したりしている。	日本や世界の音楽のリズムや楽器の音色、旋律の特徴などを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、味わって聴いている。

4 指導にあたって

(1) 題材について

本題材では、日本や世界の国々に伝わる音楽を聴き比べ、表現を工夫する学習を行う。様々な国の音楽のリズムや旋律の特徴を感じ取り、音色を味わい、音楽表現の工夫につなげていく。児童は、5音音階を使って旋律づくりを行い、和太鼓のリズムを工夫して合わせ、グループで発表する。自ら音楽表現を考えて学ぶことができる題材である。

第1次では、まず、日本のお祭りやお囃子を鑑賞し、和太鼓のリズムや旋律の特徴を聴き取り、お囃子のリズムや旋律づくりの活動をする。グループで発表し、友達の工夫の良い点や気付いたことを伝え合う。

第2次では、日本や世界の国々の音楽に親しみ、それぞれのリズムや楽器の音色の違い、類似点を感じ取る。「リオのカーニバル」の音楽や「ブラジル」、「おどれサンバ」(ブラジル民謡)を聴き、サンバのリズムの特徴をつかみ、歌に伴奏のリズムをつけ、リズムにのって演奏をする。

<題材計画>

次		1					2		
時		1	2	3	4	5	6	7	8
教 材	おはやしのリズムやせんりつで遊ぼう		■	■	■				
	ソーランぶし					■			
	鑑 葛西ばやし サムルノリ サンパの音楽						■	■	
	おどれサンパ							■	■
	鑑 日本のお祭りをたずねて	■							

(2) 児童について

本学級では、4月の音楽の授業で、「スキルアップ～歌声とリズムのトレーニング～」のところで、早口言葉でラップやボディーパーカッションを通して、リズムを楽しむ活動をした。「いろいろな表現を楽しもう」では、「サウンド オブ ミュージック」の「ひとりぼっちのひつじかい」で、跳躍する旋律とヨーデルの響きを聴かせた。5月の運動会では、「ソーラン節」を踊った経験がある。「ひょうしとせんりつ」の学習では、指揮や打楽器の演奏を通して、拍子を感じながら歌い、演奏することができた。体を動かし、全身で音楽を感じて表現することが好きな児童が多い。

しかし、音自体が苦手な児童や、音に耐えられず退室する児童もいる。また、演奏に難しさを感じている児童や、活動が思い通りにいかないと、あきらめてしまったり、怒ってしまったりする児童もいる。音が苦手な児童に対しては、担任とも連携し、個別に対応をしている。また、あらかじめ演奏活動でつまづきそうなところを具体的に想定し、「楽譜の話」や「リコーダーの指使い」、「息の入れ方」、「楽器の扱い方」などを、説明しておくようにしている。

(3) 教材について

前時の中間発表で、友達のよいところや工夫に気付き、その工夫を参考にしてグループで完成させた作品を、本時で発表する。自分たちで考えたお囃子の旋律とリズムを工夫してつなぎ合わせ、演奏の仕方も考えて発表する。演奏前に、自分たちが工夫したところを紹介することで、演奏をする児童は、その工夫を意識して発表することができ、演奏を聴く児童も、その工夫を意識して聴くことができる。息の合った演奏をするためには、友達と、目や体の動きで、タイミングを合わせる必要がある。お互いに上手に合図を送りながら演奏しているグループを取り上げ、そのことにも気付かせていきたい。友達の表現の良さに気付き、グループで音楽表現の工夫を考え、音楽活動をする楽しさや一体感を共有できるようにしていく。お互いの良さを見つけ合う活動は、他の人の意見や考えを知り、相手を尊重する態度を養うことができ、将来、諸外国の音楽や文化を尊重する態度につながっていくと考える。

5 研究主題に迫る手だて

(1) 研究仮説

〔仮説1〕オリンピック・パラリンピック教育の視点から授業の充実を図ることが、児童の視野を広げ、グローバルな社会を生きる人材となる素地を養うことに繋がるであろう。

〔仮説2〕児童一人一人が分かる授業を展開するために授業作りに授業のユニバーサルデザイン化の手法を取り入れ、ねらいの達成から逆算した授業作りを行えば、児童の学習意欲や主体的に学ぶ態度、豊かな表現力を養うことができるであろう。

(2) 目指す児童像

高学年	自他のよさを認め、主体的に相手と関わり合いながら、表現活動を工夫したり、自己の最善を尽くしたりすることができる児童。
中学年	自他のよさを感じ、相手との関わり合いを通して、目標に向かって、主体的に表現できる児童。
低学年	自分のよさを感じ、相手との関わりを大切に、楽しく表現することができる児童。

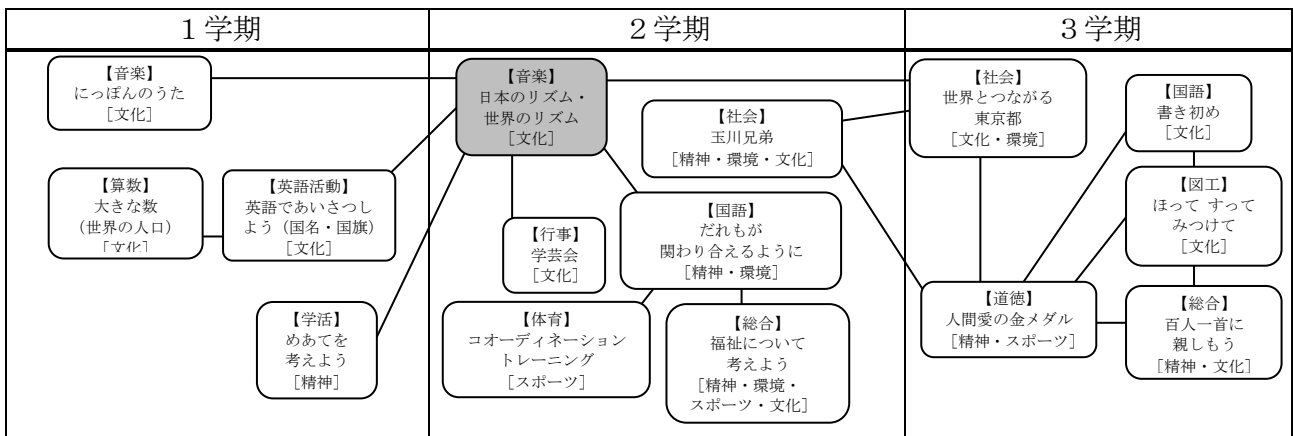
(3) 本単元におけるオリンピック・パラリンピック教育理念との関連

重点的に育成する五つの資質		4つのテーマ×4つのアクション (本時)
豊かな国際感覚	英語力を身に付ける コミュニケーションを図ろうとする意欲 世界の多様性を受け入れる力	文化×学ぶ する

※その他には、アスリートによる体験教室や留学生との交流、ふるしきを活用した伝統文化に関する学習やミニトマトやサツマイモなどの栽培活動を行って環境に関する学習も行う。年間を通して、オリンピック・パラリンピック教育実施方針に沿った活動を意識して設定する。

(4) 他単元及び他教科の関連 (他教科・他領域や日常的な指導等との関連)

中学年の目指す児童像「自他のよさを感じ、相手との関わり合いを通して、目標に向かって、主体的に活動できる児童」の実現ため、東京都の中学年向け資料を活用してオリンピック・パラリンピックそのものについての学習を行い、社会科、道徳、外国語活動、図画工作科の国旗作りなどに関連させ、国際理解へつながる知識を深める。我が国や世界の様々な音楽を通して、各国の音楽文化を知り、それぞれの音楽文化を尊重する態度を育て、国際性を培い、授業を展開していく中で、研究主題である「人との関わりを大切にし、豊かに表現できる児童の育成」を目指していく。



4年生に進級し、1学期の始めには、各自が目指す4年生像を目標としてカードに記入させ、その目標達成を意識して過ごせるよう、状況に応じて助言や支援をしてきた。運動会では限られた練習時間の中で目標に向けて一生懸命努力し、達成感を味わう姿が見られた。目標に向かって取り組む経験もしてきている。2学期は、11月に予定されている学年リレー大会や学芸会に向けても、目標をもって取り組ませることで、最後まで粘り強くやり遂げようとする心情を育てていきたい。

また、4月当初から、総合的な学習の時間では「福祉について考えよう」という学習内容で、障害者をゲストティーチャーとして招き、手話体験、車いす体験、ブラインドサッカー体験などの体験活動を通して学ぶ機会も設定してきた。それらをオリンピック・パラリンピック精神に関連する学習を中心としながら関連させ、充実した学びにしていきたい。

(5) 本時の指導におけるユニバーサルデザインの視点について

本時の授業計画の組み立て（ねらいの達成から逆算）

授業展開	活動の様子	授業のユニバーサルデザイン視点
ねらいの達成	自分たちで音楽表現を工夫し、発表する。	①ペア練習やグループの中間発表で、感じたことや気付いたことを生かして演奏させるために、工夫したことを共有する。 【共有化】
展開後半	打楽器を入れて、グループ練習をする。	①リコーダー、締太鼓、大太鼓から、担当パートを選んで取組むようにする。 ②グループで練習することで、児童同士で音を確認したり、教え合ったりすることができるようにする。 【個人差への対応】
展開前半	個々に旋律づくりをし、グループのメンバーの旋律とつなげ、演奏してみる。	①授業の流れと時間の目安を掲示し、授業全体の見通しを見える形で示す。 【時間の構造化】 ②旋律づくりでは、5音音階について触れ、黒板と音（ピアノまたは笛）で説明し、教科書P. 38の図を活用し、作り方の例を示す。 【スモールステップ化】 ③1つのグループを例にとり、グループでの旋律づくりのコツと太鼓の入れ方を確認する。 ④練習形態を黒板に示す。1つのグループが実際に演奏する形になり、お手本になるようにする。 【視覚化】
授業の導入	「日本のお祭りをたずねて」の中から、お祭りの音楽やお囃子を聴き、特徴を感じ取る。	①音楽鑑賞をするときの態度について確認し、静かに聴ける環境になってから音楽を流す。 【ルールの明確化】 ②8時間の流れを説明し、旋律づくりから発表までの時間数と、1時間ごとの課題を、児童が捉えられるようにする。 【展開の構造化による意欲喚起】
個別支援	児童の考えをもとに、図を活用して例を示す。 運指表を活用する。	・児童を指名し、その児童の旋律づくりを例にとって全体に説明をする。（教員と一緒に旋律づくりを体験させる。） 【個人差への対応】 ・リコーダーの運指表を提示し、全体で指使いを確認してから、個別にも対応をする。

6 学習過程（指導計画 8 時間扱い）

次	時	学習のねらい	学習活動・予想される児童の考え	評価
1	1	我が国の音楽のリズムや旋律に親しみ、それらをもとに自分たちの表現を工夫する。	お祭りの音楽やお囃子を聴き、特徴を感じ取る。 ・自分たちの地域に伝わるお祭りの音楽や、教科書に載っているお祭りから選んで鑑賞する。 （三社祭り：ゲストティーチャーの話聞く。） ・使われている楽器の響きや音色について、聴き取り味わう。 お囃子の締太鼓、大太鼓のリズムを工夫して楽しむ。 ・手拍子や足踏みをする。または、ひざを手で打つなどして練習をしてから、演奏する。	お祭りやお囃子のリズムや楽器の音色などの特徴を感じ取りながら聴いている。 （鑑賞カード）
	2		お囃子の旋律を工夫する。 ・5音階を使って、リコーダーで旋律づくりをする。 ・グループごとに、お囃子の旋律と太鼓のリズムを組み合わせ、練習する。	5音階を使い、音の響きやその組み合わせを工夫し、どのように音楽をつくるか発想をもって取り組んでいる。（旋律づくりカード・旋律の聴取）
	3		グループで練習をする。 ・グループごとにつくったお囃子を練習し、中間発表をする。 ・友達の工夫の良かったところを見つけ、さらに自分たちの表現を工夫する。	友達が作ったお囃子を聴き、音楽表現の良さや工夫を感じ取ることができる。 （発言・メモ）
	4 （本時）		グループごとにつくったお囃子を発表する。 ・中間発表をしたときの旋律とリズムを、さらに工夫し演奏する。 ・感じたことや気付いたこと、友達の工夫の良いところなどを伝え合う。	お囃子の旋律と太鼓のリズムを工夫して、演奏をすることができる。（演奏の聴取）
	5		「ソーランぶし」を、掛け声を入れて歌う。 ・北海道民謡であることなどを確認し、歌い方を工夫し、リズムにのって歌う。 ・和太鼓やリコーダーを入れて、歌と合わせて楽しむ。	歌唱表現やリズム表現をする学習に進んで取り組もうとしている。（発言・歌唱と演奏時の様子）
2	6	感じ取り、良さに気付く。日本や諸外国の音楽に親しみ、そのリズムや楽器の特徴を	「葛西ばやし」「サムルノリ」「サンバの音楽」などを、リズムや楽器の音色に気を付けて聴く。 ・楽器の音色、繰り返すリズムを感じ取る。 ・楽器のリズムや打ち方を言葉で表す。 ・手拍子、足踏み、ひざを打つなどして、リズムをとってみる。 ・それぞれの音楽を比べ、楽器の音色、リズムの違いや、相違点を感じ取る。	「葛西ばやし」などの、リズムや楽器の音色を聴き取り、それぞれの良さや面白さを感じ取ることができている。 （鑑賞カード・発言）
	7		「リオのカーニバル」、「ブラジル」、「おどれサンバ」の範唱を聴いて、サンバのリズムの特徴をつかむ。 ・サンバのリズムや特徴、楽器の音色に注意して聴く。 ・サンバのリズムに合った動きを考え、曲に合わせて踊ってみる。 「おどれサンバ」 ・範唱を聴く。 ・演奏の順序とくり返し記号を確認する。 ・リズムにのって歌う。	「おどれサンバ」を、繰り返しやリズムに気を付けて歌っている。（歌っている様子）
	8		<もっとあそぼう> 「おどれサンバ」に伴奏をつけて、歌う。 ・伴奏のリズムを言葉で言ってから、リズム打ちをする。 ・ボイスアンサンブルをする。 ・楽器の演奏の仕方を確かめてから、楽器で番祖を入れる。	サンバのリズムの特徴を生かして、ボイスアンサンブルをしたり、打楽器を演奏したりしている。（リズムの取り方・演奏の様子）

7 本時の学習（4/8時間目）

（1）本時の目標

お囃子の音楽に親しみ、それらをもとに自分たちの表現を工夫する。

（2）展開

過程	学習活動・予想される反応	●指導上の留意点 ◆個別の配慮 ◎評価【観点】（方法）	☆ユニバーサルデザインの 視点
導入 3分	1 めあてを知る。 おはやしのリズムやせんりつを工夫して、発表しよう。	●1時間の流れを提示する。 ●演奏形態と発表する順番を確認する。 ●演奏の聴き方の確認をする。	【時間の構造化】 【視覚化】 【ルールの 明確化】
展開 35分	2 グループごとに、自分たちでつくったお囃子を発表する。 ①グループが発表する。 演奏を聴いている人は、感じたことや気付いたこと、友達の工夫の良かったところを、演奏後に発表する。 ②グループが発表する。 ③グループが発表する。	●担当パートと名前をそれぞれ言い、グループリーダーが工夫したところを紹介してから演奏を始めるようにする。 ◆発表メモが必要な場合は、譜面台に準備させておく。 ◆中間発表で出た工夫を参考に発表できるように、ホワイトボードに掲示する。 ●児童が感じたことや気付いたことを伝え合えるように、板書をする。 ◎お囃子の旋律と太鼓のリズムを工夫して、演奏することができている。 【音楽表現の技能】（演奏の聴取）	【ねらいの 焦点化】 【個人差への対応】
まとめ 7分	3 振り返り ・友達と一緒にリズムにのって演奏できた。 ・リコーダーと和太鼓を合わせたのが楽しかった。 ・旋律を考えたのが面白かった。	グループで、お囃子の旋律やリズムを工夫し、発表した感想を聞く。 （日本のリズムや旋律について気付いたことやグループで演奏した感想など。）	【共有化】

8 板書計画

日本のリズム・世界のリズム

おはやしのリズムやせんりつを工夫して、発表しよう。

（演奏をする時に
気を付けること）

（演奏を聴く時の
ルール）

3グループ

2グループ

1グループ

感想

今日の
授業の
流れ

●1あいさつ
2グループでおはやしを
発表する
（演奏を聴く人は、友達の
工夫の良いところを見
つける。）
3…